

重点課題

特別支援教育の充実（就学から就労に向けた長期的支援）

特別支援教育推進体制充実事業のスタート！

1 特別支援教育推進グループの設置と特別支援教育推進リーダーの指名

市町村教育委員会担当指導主事によるグループ運営に係る支援

イメージ

↑ 専門性の向上

A 中学校 特支Co
B 小学校 特支Co
C 中学校 特支Co
D 幼稚園 特支Co

特別支援教育推進リーダー

※ 市町村教育長が指名（特別支援教育推進交流修了者を活用）

巡回相談員（県立特別支援学校）

各学校・園の組織的な対応を進める場

悩みを共有し相談・解消する場

- 継続的に、各グループで情報を共有しながら各学校・園の特別支援教育を推進
- 定期的に、「特別支援教育コーディネーター会議」を開催

2 特別支援教育推進グループの役割（運営）

- ① 特別支援教育コーディネーター会議の開催
- ② 他校の特別支援教育Coのサポート（特に新任担当者）
- ③ 巡回相談員との連携による他校・園への支援
- ④ 各学校・園の特別支援教育の理解促進 等

3 市町村教育委員会の役割

各中学校区に特別支援教育推進グループを設置し「特別支援教育推進リーダー」を指名、「市町村教育研究会特別支援教育部会」等の既存の機会を活用しながら、特別支援教育推進グループの運営を支え、地域全体の特別支援教育の向上を図る組織体制を構築します。

4 県立特別支援学校の支援

県立特別支援学校の巡回相談員を各中学校区の特別支援教育グループの構成員とします。巡回相談員の特別支援教育に関する専門性をグループや学校の専門性の向上や組織体制の整備などに活用します。

本事業は、市町村の中学校区を単位として、市町村立学校・幼稚園、県立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを構成員とする特別支援教育推進グループを設置し、学校間の連携・協働体制を構築することで、地域全体の特別支援教育の向上を図ることを目的に進めています。今年度は、県内13市町60グループでスタートいたしました。令和7年度からは全市町村で実施予定となっています。

【特別支援教育推進グループの編成について】

- ・ 8名程度を目安として、全中学校区を対象に、中学校区単位を基準に1グループを編成する。ただし、各市町村の学校の設置状況により、複数の中学校区による合同グループを設置するなど、各地域の実情に合わせて編成する。
- ・ グループは、中学校区内の公立幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、県立特別支援学校の特別支援教育コーディネーターで編成する。

水戸教育事務所管内では、今年度は常陸大宮市、那珂市、茨城町、大洗町の4つの市町で実施しております。推進リーダーを中心にコーディネーター会議を実施しているところです。「担当者が集まれる場があってよい」「特別支援学校の先生からの助言がいただけてありがたい」といった参加者の声がありました。また、Google クラウドルームを活用して情報共有をするなど、会議の内容を広める取組も進んでいます。まだ始まったばかりのため、会議の連絡調整が難しかったり、会議の議題について検討したりする等の課題が見られました。今後地域ごとに会議を進めていきながら、特別支援教育の支援体制のさらなる充実が図れるよう期待しています。

東海村では、坂田社会教育主事が中心となり、他課とも連携した143のプログラムからなる「東海村エンジョイ・サマースクール」を開講しました。

今回は、小学5・6年生を対象とした「プログラミングでモノを動かしてみよう！（マイクロビット講座）」を視察しました。この講座では、茨城高専名誉教授でもある柴田裕一先生を中心とした常陸 STEM 教育研究推進会のメンバー5名が講師となり、プログラミングの基礎を学びました。その他にも、自然体験や環境教育、地域の特色を生かしたサイエンス分野等々の講座があり、子どもたちは興味関心のある講座を選び、積極的に受講しました。夏休みならではの体験講座は、子どもたち一人一人の可能性を引き出すことに大きく貢献しました。

～体験の風が吹いた～

プログラミングでものを動かしてみよう！



かんたん陶芸教室